

一 発 田 館で例年通り行われた。 三月七日(木)卒業式後、体育 平成二年度同窓会入会式は、 県 秋田高等学校同窓会 秋田市手形字中台一番地 TEL 0188(32)9553 印 オ 株 刷フ 所七 田刷

本年度は昭和二十年卒で、現 になってくる。同窓会に入会し との人間的なつながりを常に保っ る人も沢山いる。こういう方々 その中で同窓会の絆は非常に強 てゆくことが、生活の上で重要 外国にまで活躍の場を求めてい 出会りと思り。県内外を問わず 髙校同窓会の人々と様々な所で いもので、世の中にでて、秋田 合いが一番大切なことになる。 てゆく社会では、人のかかわり

くのが肝要と思う。これから出

題字は塩田会長

行 者

立

場することに 先輩のたって のお 願いで登

と挨拶をのべた。 強いものになると確信する。 い諸君の入会を心から歓迎する。」

うなもので**、** 有り難いようなわずらわしいよ 哲朗氏が述べた。「同窓会とは 学医学部生理学教室教授の小川 度は昭和二十五年卒で現秋田大 先輩の激励のことばは、本年

若

なり、社会なりに出た時、

間(人間でいえば三歳から十歳

後での教育を言う。生後ある期

とは自然とか本性とかいう意味

だが、ナーチャーとは生まれた

分に教えこむと、将来は脳の神

位)が大事であって、その時十

問題なのは、逆境に立った時、 ことが重要である。先ず、絶え 覚えてほしい言葉は「Nature」 ず自己修養に徹底してつとめて どう自分の身を処するかという ほしい。脳の生理学の立場から、

と「Nurture」である。ネーチャー

己教育につとめてほしい。」と

ればまだまだ伸びる。絶えず自

励まされた。

最後に新入会員を代表して、

もに、在学中の先輩の御支援、 **灶内智矢君が|入会の喜びとと**

二年間の経験と様々な友をえた **興援助に深く感謝申し上げる。** とがわかっている。諸君も鍛え

経回路もよくできてよく育つこ



小川哲朗 秋田大学医学部教授(昭25年卒)

さつをして終えた。

同窓会会員としてよろしくお願

い申し上げる。」と力強いあい

を大切にしてゆきたいと思う。 的に参加し、時代を越えた交流 誇りを胸に、同窓会活動に積極 から指導をいただき、母校への いう大きな絆の中で、先輩たち わけだが、これからは同窓会と

絶えざる自己修養を 平成二年度同窓会入会式

由の重大さ、校長の話した、自 立の精神を考えながら進んでゆ かというと、代表がのべた、自 むのであるが、その際何が大事 卒)が新入会員を前に一高校と に続いて、塩田雄次会長(昭5 の司会で執り行われた。 在学校医でもある、長谷山博氏・ たことが、きわめて大きな役割 なった。」とユ いう温室を出で、新しい道に進 開式のことば(伊藤事務局長) な行事にも積極的に参加されて、 考えて、これからも同窓会の様々 意見等もどしどし出して同窓会 を果たすのだということをよく

えを乞うなどしたら、将来は力 どん頼って、生き方について教 職場にもあるので、先輩にどん 合が足りない たい。同窓会の支部は地域にも の力強い発展に寄与してもらい

思っています。 いくかが今後の課題であろうと 変化する社会の要求に対応して

たしております。

秋高もここ数年の間に、

正 樹氏

ぞういう意味で、大局を見な

変化に柔軟に対応できる体制を

整えつつあります。長い伝統に

制65分授業の導入など、時代の

新

数

頭

就

任

をお願い申しあげます。 りますので何卒、ご指導ご鞭撻 微力を尽くしたいと決意してお がら小局にあたっていきたいと 存じております。 母校のより一層の充実のため

培われたすぐれた校風を継承し

ながら、文武両道、本校の教育

高、秋田高各教諭、県教育セン 史専攻科修了。大曲高、秋田南 ター主任指導主事を経て本校に 秋田高、三十年卒金沢大学歴

▽高橋克二教頭の略歴

語科卒、東北電子工業高、湯沢

の開催を図ることとした。

湯沢高、東北大学教育学部国

挨拶といたします。

程、心からお願い申し上げ、

御

位の絶大なる御支援と御鞭撻の 傾けてまいりますので、同窓各 目標実現のために一層の努力を

▽松岡正樹教頭の略歴

これまで十三年間、

本校に勤

北高、秋田北高、男鹿高教諭を 行以後に開催された常置委員会 経て、昭和53年4月から本校に 動務、本年4月に教頭となる。 同窓会だより三十四号」発

名が出席して四月二十三日に鎌

多い。

余暇の利用を考えた

報委員会は、田宮委員長以下六 ▽広報委員会 本年度最初の広 当番年次打合会のもち方につい

更には、今年度の事業日程と、

て話し合いがされた。

務させていただきましたが、引 改めてその責任の重さを痛感い き続いての教頭職ということで 校舎の完成はもとより、二期 ▽企画委員会 三月一日に鎌田 は、次の通りである。

会館において小玉副会長以下六 開催された。 小玉副会長以下七名が出席して 匹月十六日に千秋会館において、 開催について話し合いをした。 た太田寿男委員長の後任につい 名が出席して開催され、辞任し てと、若年次強化対策懇談会の 本年度一回目の企画委員会は、

降)の強化対策について話し合っ 長に推せんすることで一致した。 同じ25年卒の大友康二氏を委員 る角度から検討して、年内にそ たが、これについては、

あらゆ 次に、若年次(特に51年次以 まず、太田委員長の後任には に終えることとなった。 員と田近委員とで七月中旬まで 力について話しあい、佐藤洋委 にとりまとめることとした。 なお、入力終了後には名簿委 次に、訂正名簿と新会員の入

算・予算案ならびに募金計画案 ▽財政委員会 小玉委員長以下 び三年度予算案と、121周年の決 会館で開催、平成二年度決算及 七名が出席して、七月一日鎌田 確認報告依頼を出すこととした。 員の決定次第、各年次に名簿の

編集について話し合った。 が話し合われ、事務局で七月中 下十三名が出席して開催された。 ▽名簿委員会 五月二十四日栄 ていくこととした。 て、前回並に特集号の発行をし 12周年実行委員会の活動に応じ までどのようにして決定するか 太楼旅館において、広島委員長以 集方針と日程打合せ及び35号の まず、年次別名簿委員を何日 編集方針は特に変更がなく、

|園も、高齢化社会を迎え、 サラリーマンには、 あいも植物についての知識 だろうか。▼自然とのふれ どもしか楽しめない児童公 定年退職を間近かににした などと答える人は多い。が、 はゴルフ・カラオケ・読書 では大きな差がつく、余暇 を持っているのといないの 園にしていくべきではない 場や滑り台など、小さな子 くさん利用している。▼砂 遊び場ととらえる人が多い の公園はその一つだ。身近 と云うわけにはいかない。 な観光地やレジャー施設へ しいものがないと云う人が いろいろな人が楽しめる公 が、最近は、お年寄りがた な公園と云うと、子どもの 生活の中にもある。街の中 自然とのふれあいは、日常 ▼しかし、余暇を常に有名

がする。▼国立・国定など 遊歩道や野営場、ビジター の自然公園は、すばらしい 休みでないと家族そろって もらす人が多い。▼学校が 気を養うつもりだったのが どこへ行っても人でいっぱ 休に集している。この結果 光は、お盆や年末年始、連ている。▼国内の旅行や観 の一泊以上の旅行者も増え ても先立つものがと云う向 みやすいようになっている。 ンにとらわれ過ぎている気 方や旅行先など一定のパター 理由があるが、休暇のとり 旅行ができないなど様々な 疲れだけが残ったと不満を 高で、去年の海外旅行者は きもあるが、ここ数年の円 が増えている。余暇があっ おり、自然とふれあい親し センターなども整備されて 景観を楽しむことができる。 い。日常生活から離れて英 時間の短縮などで余暇時間 一千万人を突破した。国内 週休二日制の普及、労働 条件を考慮して八月二十五日いて協議したが、期日は諸般の

行うこととし、

その他当日の役

付することを決定した。

には「校歌入り手拭」を無償配

最後に、今年から総会参加者

また、総会の進行は41年次が

まず、総会の日程と運営につ

し た)

急上昇などもあって、 とした大学・短大への進学率の

まさに平成三年度入試はこのよ

まれた子供達が受験期を迎え、 ある。第二次ベビーブームに生 高校生にとっては受難の時代で

現代の高学歴社会を背景 | では一二二万人に もなるだろり

と推計されている。

あるが、

平成三年度の入試結果

素以上の力を発揮するのもので ものでこれが良く作用すれば平 に対する危機感、緊張感が働く

は真にこの様な事であったと言

| る一校受験化の傾向、二次重視

大における分離分割の増加によ

| 五二・七%) 、#

%同五〇·一% 進学率七〇・三

入試の特徴としては、国公立

| 三%(昨年六三・一%、一昨年

について述べると、合格率七四・

本校における入試結果の概略

┃では実に一二○ 万人を越え、 成三年度入試(本年三月卒業生) 者数は一〇〇万人 を突破し、平

平成四年度入試 (現三年生)

ここ数年、大学入試を目ざす

受験者急増期

の入試にあって一平成三年度入試から

うな中で行われたものであった。

困難な時期というのは、それ

ねいてきたわけではなく、必要

たと言える。

える。もちろんその間手をこま

向の合格優先型受験などであっ

の進展と地方への波及、安全志 とした併願、私大の難化の一層

の傾向、地域の拠点大学を中心

であった。

と思われる手段を講じてきたつ

もりである。

項 Ħ

(教)

(医)

(鉱)

大学名

北

弘

岩

東

Щ

秋

田

福

茨

筑

埼

千

東

東 京 学

東

横

新

金

名

京

大

東 京 都 立

青 Ш 学 院

慶

上

中

明

立

早

同

立

北大医二名、秋大医九名などが などであるが、この中には、

るのであって、

将来社会人としてどの様な職

立九名(壬二)阪大二名(壬二) 東京学芸十一名(壬三)

応

義

稲

志

命

東京外国

京

お茶の水女子

古

玉

大学合格者数一覧表

平 成

現

7

15

9

35

68

9

32

5

3

4

6

6

2

8

11

1

9

12

1

2

1

5

9

12

14

8

10

8

五名 (昨年比()十二)秋大一〇

九名(土)三)東大八名(土三)

道

前

手

北

形

島

城

波

玉

葉

語

京

芸

業

橋

立

潟

沢

屋

都

阪

塾

智

央

治

教

田

社

館

3 年

浪

2

3

7

13

3

14

4

7

1

1

4

1

2

5

3

4

2

2

5

2

2

2

7

2

5

6

10

1

8

2

4

る割合は五二・三%であった。

主なものをあげると、東北大三

度

計

9

18

16

48

3

82

13

39

6

4

4

10

7

2

10

16

3

5

2

11

17

2

1

2

2

3

12

11

5

18

24

9

18

2

12

同窓会館の建設と記念行事や年史の刊行を 同窓会だより三十四号」発 120 周年実行委員会

会の状況は次の通りである。 事業実行委員会の各専門別委員 行以後に開催されたエロ周年記念 会務報告)の通りであるが、 各委員会の開催期日は、別記

れました。

窓会館の施設を校地内に建設す その結果、記念事業の柱とも

総会は

八月二十五日间の予定

军次打个

め

各年次とも出席者増に努め

割分担等について話し合った。

なお、会の盛り上げを図るた

一十六日に総務委員会が開催さ いて、そのまとめとして七月 各委員会で協議されたことに コンピューター室など同窓会専 るということを決定しました。 試合等と、国内外の研修視察な どの案が出され了承された。 員会に一任することとなった。 ることを話し合った。 使える室を作り立派な施設を造 用部分と、広く多機能な用途に また、行事委員会の行事とし この会館には同窓会事務局と、 なお、具体的な設計は施設委 さらに、校史委員からは校史 祝賀会、文化・体育の招待

広報委員会の特集号の発行案と 作成の編集案 (20頁程度) と、

退任

あ

さつ

支予算案と募金計画案とについ最後に、財政委員会からの収 政委員会の案にしたがって事業 苦しい予算となるだろうが、財 て協議されたが、各委員会とも の推進をはかっていただくこと

することになった。 なお、募金目標額は一億円と

募金業務の進め方については、

進をはかることとした。 ともに、募金委員会を設けて推 各年次に募金委員を委嘱すると

斎 藤 広

校に奉職ができ、充実した教職 13年間、母校である名門秋田高 したことを大変幸せに思ってお 生活を無事終えることができま 昭和53年から本年の3月まで

前教頭

孝

んでいる次第です。運動部関係 では硬式野球の甲子園出場3回 年にない好結果で関係者一同喜 の他多くの種目で好成績を挙げ しました。本年の入試状況は近 65分授業を実施して三年を経過 窓諸兄姉が築いてきた輝やかし ました。文武両面にわたって同 センター試験などと大きく変り 大学入試制度も共通一次そして 、伝統を継承できるよう二期制

ため、二回目の打合会を七月中 るとともに、会の万全を期する

に開催することとした。

その他では、同窓会だよりの

前教頭 松 田 至

月十日、栄太楼旅館に於いて小小(31、41、51) 打合会は、五本年度の当番年次(S11、20

玉副会長、清水企画委員と、各

年次より二名の代表者が出席し

者は作家西木正明氏S3と決定田ニューグランドホテル、講演

どを決定し、了承された。

こととした。(後日、会場は秋

新入会員入会式の司会、激励者 協賛広告六十コマの年次分担と、

の人選を20①年次が担当するな

てその交渉は事務局に一任する

会場と講演者は、候補をあげ

(日)午後二時からと決定した。

ど充実した日々を過ごさせてい ただきました。 内容的には筆舌に尽くし難いほ 同窓会の皆様のご支援のもと わずか二年間の在職でしたが、 ます。

をお願い申し上げます。

や六十五分授業の定着化、部活 なって、最重要課題の進学問題 でき、うれしく思っております。 動の活性化等に取り組むことが 県教育センターに転動になり、 先生方、生徒諸君と一丸に

ので、今後とも変わらぬご指導 のご発展を心からお祈りいたし 情報処理教育研修部におります 秋高並びに秋高同窓会の一層

発化するにつれ、事務局もあわ 局に女性の補助員をおいていた あわなくなり、本年度から事務 ただしさを増してきました。 事務局もひとりの手では間に

ります。本校42年卒の「長谷川週月・水・金曜日に勤務してお 和子」さんです。今後もどうぞ 宜しくお願いいたします。 四月から事務局長と同じく毎 ハイ・新校舎の建築等があり、 在職中、学校創立百十周年記 御礼申し上げます。 の募金等では、同窓会員の皆様 の絶大なご支援ご協力を得まし ることができました。大会出場 ことができましたことを、 て秋高の名声をより一層高める 教頭となりましてから学校側

務は次の通りであります。

北 大

照助S20小松 正一S16 祐一S29 竹屋直太郎S42

祝

当

選

一敬称略

新入会員入会式

由 藤 加 佐 田 原 藤 藤

養 哲康 S S 26 47

... ... S 39

靖男S 32

企画委員会

▽だより三十四号で報告後の会

塩田会長はじめ役員の皆様には 各支部の会に出席致しましたが、 皆様のご健勝を祈念し、退任の や激励をしていただきましたこ 母校発展のためいろいろご指導 代表として同窓会の各委員会や 同窓会の一層の発展と会員の

120 周年施設委員会

河辺町長鷹巣町長 大館市長

大 岩 小山 川 畑

横手・平鹿支部総会 飯田川支部総会 同窓会だより3号発行

事務局だより

あいさつと致します。(昭23卒)

昭和矢留会総会

祝(判明分敬称略)

黄綬褒章

藍綬褒章

藍綬褒章

勲五等端宝章

勲四等端宝章

勲四等端宝章

正・副会長会議 大潟支部総会 井川支部総会 東肥羽城会総会

麡

S 20④北林

三浦

小玉

長嶺

辻

S 23

S 13

S 19

S 4

S 13

120周年総務委員会 120周年行事委員会 財政委員会 大曲支部総会 120周年施設委員会 鹿角支部総会

哀

(判明分・敬称略

五城目支部総会

佐渡渡藤部辺

英男 (S23)石巻市3・ 謙二(S15)字治市2·

忠 (S21)モスクワ3・

4 120周年校史委員会 広報委員会 120周年施設委員会 東京支部総会 当番年次打合せ会 企画委員会 名簿委員会

太田平八郎

照助

弘信

兵吉

正己

三雄

120周年名簿委員会

はその首都圏の有名私大を受験 ると、慶應九名(+三)中央十 九%であった。主なものをあげ 比(+)十四) 合格者実数一 たが合格者延数一六三名(昨年 するので、その結果が心配され であり、本校受験者のほとんど 口急増のあおりを最も受けた所 で、卒業者に対する比率は二二・ 次に私大においては、受験人 一〇四名

晴 與 小 山 佐 菅 小 佐 沢 山 貫 下 藤 生 松 藤

- D (S S 7) - D (S 7) - D (S

点であった。この事も国公立大で で全国平均に比べて(サービー・ハ 一点(昨年比□三五・四点)、であったが、全国平均五○九・ 動的で先の読めない困難な試験 試験二年目であり内容もまだ流 人数は二三八名で卒業者に占め 公立大に合格した延合格者数は 善戦した要因の一つであったと 言える。卒業生四五五名中、 本校五八一・七点(同〇二六・九) 一八二名 (昨年比()六一)で実 国公立大においては、センター 玉 どであったが、中堅私大といわ 朗治十四名 (土四) 早稲田十名 |名(土三)津田塾五名(土四) (①一)立命館八名(①七)な

像と深く係わっている。 おり苦戦をしいられた面も多い。 自身の将来像に対してどの程度 事は、その当事者である生徒が れるところでは確実に難化して 接近してゆけたかという事にあ 大学受験において最も重要な 業に従事していこうとしている 会での経験に基づいた助言が、ここに同窓の先輩諸氏の実社 も真にこの点にあるのである。 のである。進路指導も受験指導 かう気持にインパクトを与える のか、その事が生徒の受験に向 在校生にとって必要であるとす

(有) ひしい いとう寝具

取締役 藤成身 伊 (S51年卒)

秋田市英島四丁日 4 - 10 TEL - 0188-23-0058 工場 いとう寝具豊岩工場

滋養豊富 野菜味噌ラーメン 珍味無類

森神田田

敏夫(S29

2)秋田市3・6

)秋田市3)秋田市3・ 山尾昌司郎 (S20)石巻市3・

弘人 (S6)東京都3・忠 (S7)仙台市3・

陶 亭

電話 0188-62-3559

潜 英島交差点角 秋田県卓球協会 大曲市体育協会

理事長 佐々木岩男

成田

朝春 (S18)秋田市3・ロー功 (S15)秋田市3・

仙 (S3)(S:::: 仙 (S6)伊勢原市3・c

(S31卒) 大曲市上大町11-9 電話 0187-62-5003

秋田県生コンクリート工業組合 秋田市八橋字下八橋 1-17 (24)5540

秋田県生コンクリート協同組合 秋田市山王四丁目6-20合同ビル内 (64)0286

理事長 奈良力男 (S31卒)

博 美 後 8 8 23 42 42 品質本位 キリンビール 酒 太 平 山 全酒類卸売業 資)ヤマキウ商店 代表社員

小玉康延

(S31卒) 秋田市南通亀の町 4 - 15 TEL 0188 - 33 - 5104 ~ 7 昭和11年卒(第49期) 十一紫

代表佐藤民治 秋田市広面字野添40-5 TEL 0188-33-0246

事務局 伊藤 秋田市寺内字蛭根38-24 TEL 0188-24-2551 今やセンター入試と名称を変え ている。その共通一次試験も、 な波紋をもたらしたのを記憶し ど数々の行事や学校生活に様々

書を書く手間や予算の問題があ

かむ上での大きな障害になって 十年間という歳月が、消息をつ がたくさん生じてきた。まず、

同窓会の支えを私たちは忘れて くださった、先輩の力がある。

安東氏,について講演会を開催

男鹿半島史の泰斗・磯村朝次郎 年・第六回文化講演会の折は、

任、新支部長に森山勇一郎氏

し、加藤義孝氏(昭16年卒)辞

先生がおいでになり、三月二十 藤事務局長、学校からは小林洋

一日に開かれた。

伊藤鋼二郎会長の挨拶のあと、

立つようになった。会員数が二

親子で会に出席するケースも目

近年は会員の二世も合格し、

男鹿市が、この対策を実施前か 献をとの熱情から開催した。尚、

私達はこれに着目し昭和62

を報告し了承を得、役員改選を

(一五〇万円) 又、事業経過等

一)と会員十六名、本部から伊

歌は五番までキッチリと。

今年は、新入生四名(内女子

総会に移り、会計収支決算

労もこめて行われてきた。 年から新入生の激励と父兄の慰 年三月に開かれる。昭和五十九

私たち井川支部の総会は、例

川支部総会

光地に飛躍できるよう邁進され

ているが、私達もこの推進に貢

陰に、運営のノウハウを教えて

実は、私たち同期会の成功の

いたし、

連絡をとろうにも、葉

はならない。

秋田高校追分地区同窓会 「追分三叉路会」

設立される

幹事長

吉成俊太郎(昭26卒) 水沢瑞門 (昭18卒)

佐藤治三郎(昭25卒) 鎌田圭喜(昭22卒)

副会長

出席により盛大に開催されまし 会場にして、同窓生五十八名の 総会が追分農協生活センターを 追分地区秋田髙校同窓会の設立 平成三年二月十七日午後三時、

む中、豊田成昭氏のボディビル

|臨席を頂き和やかに懇談が進

で鍛え抜かれた筋肉美のデモン

三、四十名の恒例参加を見込

同窓会副会長、伊藤事務局長の

懇親会には室田学校長、小沢

渡辺一男 (昭27卒)

分三叉路会」としました。 叉路を中心に三地区が位置して いるところから会の名前を が約三百名おりますが、追分三 と天王町追分地区には秋髙OB 秋田市下新城地区、金足地区 役員構成は次の通りです。 長 岩城信雄(昭20卒)小野又雄(昭18卒) できずテーブルを並べ変えて飲 かに歌った後も、すぐには散会 と校友会歌を出席者一同声高ら 上がりました。久し振りに校歌 ストレーションには驚嘆の声が み直し、更に夜の街へそれぞれ



繰り出しました。 ランドホテルを午前八時出発。

到着するや、濃霧は一瞬に晴れ、 登って、待望の八幡平、十和田 国道七号から同二八五号に入り、 陽光さんさんと輝いて、眼前に 惨状。 ところが頂上の発荷峠に **うとしたが、精進不足がたたっ** 高原の眺望をほしいままにしよ 小坂町から新設の樹海ラインを 濃霧で視界十メートルの

新緑の十和田と鹿角を観光 一泊二日でバス旅行

田と鹿角観光をバス旅行で親睦 月二十七、二十八の両日、十和 鹿角市長)の招きに応じて、六 新緑懇親会を級友阿部新君(前 秋中五十期会(昭12卒)では、

年令となると、体調を崩して一 たところ、七十歳台に突入した 休憩所予約など準備万端を整え み、デラックス大型バス、観光 とで予定人員に達せず、結局、 も加えて十二名となり、急きょ 東京からやってきた伊藤広吉君 日間のバス旅行は無理というこ 大型を中型デラックスに変更。 一十七日は、アキタニューグ 喫ののち、夕刻、花輪の阿部君 の百助旅館に到着。 に車中のビールと冷酒のききめ 新緑の十和田湖が展開。 人類渓流を往復して森林浴を満 か現われて一同バンザイ。 上遊覧を楽しみ、子ノ口から奥 休屋から遊覧船で波静かな湖

代に建設したマインランドの新 旧施設を同君の案内で、地底四 れて夜の情緒に繰りだした猛者 のりにのってお座敷ダンスも堪 人の心温まる接待と花輪美人の お酌でメートルはあがりっぱな も数名。 青春は年令にあらず。 翌二十八日は、阿部前市長時 八時半、懇親会開宴。阿部婦 散会後、花輪美人に拉致さ 校歌・応援歌・カラオケで

る。次第に焦りが生じてきた。 期会の開催が約束された。二回

長・塩谷順耳氏を招聘し平成二

講演会は、前秋田県立博物館次

半島に盤踞して、海運を通じて

秋田県の中央部を統治し、男鹿 そして佐竹氏より長期に互って、 信長・秀吉・家康について講演。

男鹿や秋田県の発展に貢献した」

◎Ⅱの開催状況。第九回文化

年新春役員懇談会開催状況。

|年総会開催状況。2| 平成三

第九回文化講演会・平成

| と諸大名の争い ┊┊ 安東氏と

文化

講演

会開

催

男鹿支部

春役員懇談会を開催・森山勇

ことではない。しかし、 重ねていきたいと思う。 語り合い、互いに生き方を見つ 友の楽しそうな笑顔と、近況を 気の中で会が進められた。 る喜びを糧として、今後も回を め合う意義あるひとときをもて を開催していくことは、簡単な |年に一度、故郷秋田で同期会 現在は、同期会の事務局を護 県外の転居した友も多い中で、 参会の 氏(昭25年卒)による。男鹿・

国立大学の入試改革が叫ばれて

同期会開催への活動がスター

いた時代でもあった。マークシー

された。

共に旧交を暖めた。会が盛会裡

同期の仲間が、恩師の先生方と

に終わったのはいうまでもない。

ト方式による共通一次試験の

ようとしてみると、困ったこと

ところが、いざ活動を開始し

次であろう。受験戦争が激化し、

で育ってきたのが、私たちの年

日本の高度成長期の真っ只中

十六年になろうとしている。

という仲間の声と、同窓会から

とこぎつけた。

会場の平安閣には、約百名の

てみようではないか。」

「十年目の区切りに、

合をつけ、昭和六十四年一月三

日。ついに第一回同期会開催へ

たおかげで前回とは違った顔ぶ は減少したが、名簿が整理され 等の為、約八十名と、参加人数 れた。悪天候と、幹事側の欠席

れも多く見られ、和やかな雰囲

て、

歴史的ロマンに充溢した観

を探求・再構築され、これによっ

して、" 男鹿・安東氏の史蹟等

丁度卒業後十年が経過した年で に本腰を入れて取り組んだのは、

約二十名の仲間が、分業し、情

報収集に走り回った。予算も都

私たちが、初めて同期会開催

そのとき私たちを救ってくれた

のは、市内在中の仲間である。

田ニューグランドホテルで行わ 目は、平成二年一月三日に、秋

男鹿・菅原市政は、低迷状況に

幹事長(昭和27年卒)は「現在、 ホテル諸井にて開催。秋山秀麿

27年卒)の閉会の辞で閉幕。 懇談を重ね、平川秀三郎氏(昭

り、

(秋山秀麿

記

ある男鹿観光の強力な振興策と

北の諸大名』と題し、男鹿駅前・

史上における男鹿・安東氏と東

年十月二十七日王午後、『中世

と一時間、格調高い講演をされ

の代表・今山弘毅氏 (昭14年卒) と述べた。その後、地元・北浦 して特別に企画・挙行したい」

の祝辞の後、空前絶後の和気あ

いあいの内に出席者20名が各々

時は、刻々と流れている。

の名簿作成の依頼とが重なって、

共通一

ませ、登ってからもうかれこれ

うぐいす坂を希望に胸を膨ら

次」ということばが、秋高祭な 期生が私たちである。「共通

昭和五十四年卒 に来年一月三日の三回目の同期 会開催に向けて活動している。 国神社に置き、名簿整理を中心 成田良実 駆的役割を果たした。」と開催 主旨を述べた。 含む20名の聴衆に その後、塩谷氏は一般市民を 好評を博し、観光政策の先

(ji) (j

安東氏

呈する。

めて有意義、盛会裡に終了。尚、の後、直ちに懇談会に移り、極

上記の二講演資料を申込者に贈

ての話があった後、

現役時代を回顧しての自己紹

入生としての心構えなどについ 小林先生からは学風を交えて新 伊藤事務局長から同窓会の近況、

新会員の加入が急がれるとごろ、

また、事務局のサイドで、支部

て、きちっとした名簿の整理、

十名程度と少ない井川支部にとっ

拶後、室田学校長の現状説明等

(昭13年卒)を選出・就任の挨

十三日生、午後、男鹿温泉・セ

| て初めて明かす秘話も出てきた 介は、日頃聞かれない〇Bとし

◎②の状況、平成三年二月二

切れにしてはならないという会

二年に一回の同

せっかくの友との出会いを断ち

さて、第一回の同期会の場で、

とたん 花輪ばやし実演、 光バスで満員の盛況さに、全国 ラ館(鹿角観光ふるさと館、 キロ弱を歩く。続いて、アント にありての感を深くして、夕刻 すして、鹿角・八幡平・十和田 秋田観光のヘソは、秋田市に非 観光ルートに完全に組み込まれ シネラマを鑑賞。他県からの観 イヌ語で鹿の角との意の由) 秋田市到着解散。 欠席の那波三 ている鹿角観光行政の巧みさに、 三百六十度大 で、

藤博次、 **福田兼一郎、山崎忠秀**。 (東京) 、小玉健吉、小西理兵 (参加者) 相沢弘、阿部新、伊 坂

本元、

桜

全

頭、 池田康夫、伊藤広吉 、沢石謙、 (沢石

八郎潟支部 新入生歓迎会

ことができません。今でこそ十 人か二人でした。参加者も少な したが、二十数年前はわずか一 名以上が合格するようになりま の小野穣氏などの尽力も見逃す 長の小松秋明氏、また現幹事長 数えることになりました。前会 昭和二十三年以来四十三回目を **台格を祝して総会が開催される。** 当支部は毎年一回、新入生の

近では、巣立っていった若い連 ることだと思っております。最 が、毎年三月二十日すぎに当会 を持ち続けたことは大いに誇れ 集めて開いたこともあります。 いろいろ紆余曲折はありました

> 中が大量参加するようになり、 いるところです。

のまとまりと面倒見の良さを保 るという不文律もいつの間にか 定着し、八郎潟支部「秋高会」 際は幹事七名が必ず下足番をす きました。さらに会員の訃報の 次会はそのOB持ちという具合 ようになりました。歓迎会の一 あげております。 に、各家々を回る習慣もついて OBの子弟も続々と入学する

幹事連も世代交替すべく考えて ち続けております。これからも

加藤産婦人科医院

場での応援に声を限りの気勢を 果たしてほしいと、毎年弁天球 手が出て、母校の甲子園出場を 井浩郎選手のような力のある選 野球部に並々ならぬ力を注いで いるこです。八郎潟中から、石 当会の特徴としては、母校の

く、近隣町村からOBを応援に

郎右エ門君からの多大の芳志に

母校の発展を心から祈念するも のであります。 大館支部総会 事務局 武塙悠八記



作成と第十回文化講演会を記念 高揚し、男鹿の躍進に貢献を」 年十月総会の懸案事項・新名簿 と挨拶。秋山秀麿幹事長は「昨 支部長 大館支部役員

副支部長 布袋屋伊作

寛司

事務局長 伊藤

度にうるおう頃、先輩・後輩が ユニークに進んだ。 碩彦 浩 喉も適 文具・事務用品

を歌うこと。円陣になって肩を に人生の万感がよぎっているよ る。この時でなければ見られな うで……。今年はいつになく校 やはりメドレーで校友会歌など い光景でもある。フィナーレは 入りまじり、話に花が咲いてい くみ大声で歌う。それぞれの胸 長谷部光重 (S41卒)

長谷部光重税理士事務所

〒010 秋田市山王 2 丁日 7 番 1 号 ドミ山 E (0188) 65-2441 FAX (0188) 23-5468

S41本平 岡清明 S43卒平 岡 清

代表取締役社長 嶋 北

Œ

渡辺整形外科医院 佳 則

大学 (S 20④ 卒) 木曜・土曜午後・日曜・祭日休診 秋田市千秋矢留町2-5 (バス停警察署前・通町下車) TEL 秋田(0188) 33-2112(昼間のみ)・34-0611 34-0612(夜間入院患者呼出し)

S 20

④ 卒

藤 昭 典

加

TEL 01公上三二十二九三五 秋田市南通亀の町聖霊高校正門前

渡部法律事務所

案もされている、このごろの近 旗・応援旗などを新調する計画

弁護士 渡 部

(S41卒) 秋田市山王中島町13番41号 電話 0188-65-2127

〒010 秋市楠山南中町4番51 電話 (0188)35-2454

株式会社 イヤタカ

(S41卒)

秋田市中通り6-1-13 TEL 0188-35-1188

うお**願**い申し上げます。

また、遠路のところ母校より

滕事務局長が御出でくださり、

小林洋先生、

一同窓会本部より伊

剣

道部

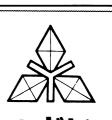
魁星旗で ベスト8

小牛田農林、

過去インターハイ

げると共に今後も先輩支部とし この紙面をお借りし感謝申し上

て、ご指導ご鞭撻を賜りますよ



関連した男鹿支部の活動報告、 話や秋山幹事長の「安東氏」

して頂きました。両先生のご講 同窓生の活躍についてのお話を

ĸ

平成三年三

三時から、

新入生に秋髙生としての心得や、

に真剣な眼差しで話しに聞き入 更には児玉邦男会長のあいさつ

父母の姿が印象的でした。 る新入生と、熱心にメモを執る

会員十七名が出席して開会した。

菅原会長のユーモラスなあい

今回は、

大潟村中学校から7

大潟村

総会新入生歓迎会

にはこの日の助言を忘れず一刻

も早く人生の目標を持ち、有意

名の合格者(当日1名欠席)を

出しましたが、新入生の皆さん

収支決算並びに3年度事業計画 に於て行われました。 迎会が当村「ふれあい遊創館」 大潟支部の総会並びに新入生歓 総会で平成2年度事業報告、 先般(平成3年3月25日)、 て止みません。 義な秋髙生活を送る事を希望し

薄田 茂 記

> バネに一層の努力をする。また トの良い成績となった。これを



支部より秋山秀麿幹事長はじめ

当日は、ご多忙のところ男鹿

役員3名がご出席下さり、近隣

及好に多大な貢献をされました。

いて「新入生歓迎会」が催され

致で可決承認された後、引続

案)、収支予算(案)が全員

統の継承を期待したいと話をさ 面にも、力を入れ文武に亘る伝 と解釈をしているので、その方 運動部の活躍も相乗効果を生む しかし、学業も大切であるが、

特記されることとして、会で

だいた。 また前回の総会の会計報告につ り、菅原幹事長から会務報告、れていた。続いて協議事項に入 いても了承された。 全員留任と、会員の賛同をいた 役員改迸について提案があり、

は昭和六十三年から地域から母 場内から秋高強しの評価を多数 戦僅差で敗れはしたものの、会 校に合格した新入生と父兄を招 準々決勝近大附属高相手に善 これも、

られた。 誓い表彰式に臨んだ。 と認められ、 尚、大将鎌田昌晃が技術優秀 優秀選手賞がおく た。しかし、大将水見の土壇場 常に不安な出出し、となりまし 雰囲気にのまれ早々と敗退。非 での追い上げなどで代表戦に持

良正強高、千葉安房高、宮城県

大阪PL学園、奈

北は北海道東海四高、南は宮崎 県立体育館で行なわれた。 勝抜剣道大会が、四月一・二日

晃を中心として優勝を目指し大

成績を残す我が校も大将鎌田昌

今後精進することを部員 を糧とし全県総体優勝を目指し 受けたのであった。今回の大会

同が

を狙っていきましたが、周りの分が先鋒をかって出て五人抜き

過去四回優勝、準優勝三回の

いに期待されるところであった。

一回戦は先鋒佐藤宍紀が宮城

第二十回記念魁星旗争奪高校

戦として熱戦が展開された。

が参加し、インターハイの前哨

を奮起させました。

一回戦の高松商業戦では、自

出来る」という一つの支えが我々

「日本武道館で試合が

優勝校など全国の強豪二〇六校

全国高校柔道選手権 大会に出場して

利を収めることが出来ました。

冷汗をかきながらも勝

続く二回戦の四日市中央工業

ず副将大将を残す活躍であった。

石上卓矢が郡山高校を相手にせ 県涌谷高を一蹴、三回戦は中堅

この門をくぐるまで、理詰めの 武道館の門をくぐりました。 にベストコンディションで日本 昨年十一 三月二十一日、 一月の県大会優勝から 我々は心身共

での稽古に継ぐ稽古、

、精神面で

のたくましさが感じられる一

戦

とは数多く、これから生きてい

する」だった。

今のメンバーは|

三年生が

今回の大会を通じて学んだこ

えば例年にない豪雪、厳寒の中

し準々決勝へと駒を進めた。思がよく踏ん張り四人抜きを果た

まったのか、自分達の柔道をさ 戦では、緊張感の糸が切れてし

ることが出来た。

僕たちはこの大会に臨むにあ

せてもらえず、あっさり敗れて

しまいました。

たり、

ある目標をたてた。それ

というのをよく心して、また部

「次の主役はオレたちだ」

員全員が、『全県大会優勝』

بح

いう目標に向かって心を一つ

は、

『安田先輩を使わずに優勝

高校。大将鎌田まで追込まれた

続く四回戦は京都の名門東山

昭 和 矢 留留 会 • 総 会

同久閣を叙し、

して歓談のひとときを過したが、同久閣を叙し、本間君を中心に

飯

田 Ш 支部

総会

歌を大合唱する時間を相なった。に過ぎてしまりのが世の常。校い時間はまたたく間

きっと各々の脳裏に学生時代の りあげ、懐かしの校歌を歌う。

ぬなか、別れを惜しみつつも我

が飯田川支部総会はお開きとなっ

と飛びだし、

万歳と拍手が止ま

か。校歌が終わり、応援歌が次々 巳が去来したのではないだろう

た。

伊藤事務局長の出席をいただき、 母校から室田校長、同窓会から 、三年ぶりで総会を開年三月三十一日・午後 いたことは、 長から、お祝いの言葉をいただ 今回、たまたま総会と重ったこ 待して激励会を開催しているが、 入学前であったが、

ごりをおしみながら散会をした。 全員で高らかに校歌を歌い、名 れる位に盛会であった。終りに 気アイアイと時の過ぐるのを忘 のである。 (昭和矢留会幹事) 小野 さて懇親会はにぎやかに、

北で二位と合格率六十パーセン

格は、東大十名、東北大には東 その中で今年の大学受験者の合 校の近況について報告があり、 さつに続いて、室田校長から学

東京紫紺 会

冥福を祈る黙禱を了えてから一 たのは錦上に花を添えてくれる なかったことは寂しかったが、 の顔が見られなかったことと、 ものだった。型どおり物故者の 久しぶりに本間道君の出席があっ たものは後記の十四名、常連の 冬のさ中ながら、集まり来たっ 洞で午後六時から開催した。 真ン中、東京銀座六丁目の富貴 は、平成三年太郎月の末日、 在秋クラスメート代表の参加が 「羅綾の絹の袖軽ろき巻」 第21回東京紫紺会(昭13年卒) 、佐藤高、進藤、平沢君達 のど 厳

しても一層の精進を期待するも 外の幸せであったと思う。会と 新入生としては望 和 佐藤久、佐藤全、菅原菊、 者(敬称略、五十音順)はつぎ のとおり、加賀谷、斉藤、 と言われる八時頃だった。出席 いたのは、銀座ではまだ宵の口 中山、長嶺、西田、早川、 約して散会、三々五々家路につ るを感じさせた。お互に再会を 県民歌を斉唱するあたりは、シ 最後に恒例の校歌、校友会歌、 りながらそれを暫く忘れて、往 えず、馬齢なお燦々たるものあ 時を語らい、近況を報じあい、 夫々が古稀と言われる年令であ ルバーエージアンの意気未だ衰 山信田以上十四名。 、本間、

均年齢をとってみたところ、

均年齢をとってみたところ、五とつである。因みに出席者の平

か。当支部にとっても課題のひ

のが若い人の出席ではなかろう

支部も悩みのタネだと思われる

たが、これは例年のこと。どの

当日の出席者は二十人を数え



報告、監査報告、 て無事議事を終了した。 続いては待望の懇親会である。

に花が咲いた。いや、咲きに咲する集団に理屈はいらない、話 で、それは始まった。母校を愛

て、第三十回大会を記念し新し 多くの先生方、OBの方々の御 くなった優勝旗を見事に勝ちと にも、これらの経験で学んだこ たのであり、その恩に報いる為 協力があってこそここまでこれ りました。これも監督をはじめ われた全県選抜柔道大会におい とを大切にしていきたいです。 全県選抜柔道大会に優勝して 僕たち秋高柔道部は、先日行 安田大介) 竜士 あとは一、二年の若いチームで りなすぎたと思う。 た。今思うと二年生に自覚が足 して納得のいくものではなかっ のの、先のことを考えるとけっ 臨んだ。だが結局先輩に頼って こそはと思って僕たちは試合に たら絶対に勝てなかったといっ 分を占めてきた。先輩がいなかっ てみても先輩の力がかなりの部 てもいいだろう。それで、今度 田県予選、中央地区、どれをとっ ある。しかし過去の全国大会秋 しまい結果として優勝はしたも 全県大会までもう一か月もな

(3年主将

2 年

鎌田

伊藤守一同窓会事務局長の音頭

羽 城 (校友会々誌) 現在 欠いているもの 第7号 (明治27年頃) 第17号 (明治31年頃) 第21号 (明治34年頃) 第31号 (明治39年頃)

第40号

第41号 第42号

第43号 第44号

第45号 第46号

第47号 第48号

第49号

第50号

第51号

第52号

第53号

第55号 第56号

第57号

第58号

(明治39年頃) (明治45年頃)

(大正2年頃) (大正3年頃)

(大正4年頃) (大正5年頃)

(大正 8 年頃) (大正 8 年頃) (大正 8 年頃) (大正 9 年頃)

(大正10年頃)

(大正11年頃) (大正12年頃)

(大正13年頃) (大正14年頃)

(昭和2年頃) (昭和3年頃)

(昭和4年頃)

(昭和5年頃)

(昭和四年卒)のあいさつで 願

聞くにつけ、頼もしくもあり、 うれしくもある。**続**いて、会計 始まった。次にご来賓の室田校 長先生と小林同窓会副会長から 学校の近況などについてあいさ 役員改選を経 後輩の活躍を お 本校図書館では創立120周年に備えて校史資料を整備しております。その一環として今年度は校内で発刊されました校友会誌(羽城)、文芸部誌(琢磨)、社会部誌(南暁)、秋高新聞と卒業アルバムの収集を急いでおりますが下記の各号が欠けております。 県や市の図書館や古本屋などにも当ったりしておりますが、欠けている部分がなかなか埋まらないのが現状です。

講講講師師師 教諭 教頭 石井えり子先生 済藤 広孝先生 腰 金山 弘樹先生

梅島伊津山藤 松虹出 (氏名・転出先) 絋志先生 宏毅先生(栄悦先生 至弘先生(県教育 (秋田中央高 (新屋高) (秋田西高) センター)

川仁子先生

(新採用)

博先生(

講師として)

髙橋 一成先生(高校教育課)

松気 (氏名・前任高) 正樹先生(県教育 センター

珍田 平松伊軽稲瀬田藤部村 小野 秀夫先生 孝紀先生 光章先生 光博先生 一人先生 和夫先生 健爾先生(秋田南高) 綾子先生(高校教育課 (秋田西高) (新採用) (新屋高) (秋田北高 (秋田南高) (秋田北高)

秋田高校写真集」 について

一ので、 とと思いますが、これには学校 の発行について依頼があったこ 版」より同窓会員に標記出版物最近、松本市の「たつのこ出 も同窓会も一切関係ありませ お知らせいたします。

後記

編

集

び申し上げます。 遅れてしまいました。深くお詫 ておりましたが、 ました。七月上旬頃を目途にし だより第35号漸く発刊に至り 諸般の事情で 残暑厳しき折

しょ それで、同窓の方々のお力添えをいただき たくこの「お願い」を載せていただきました。 たくこの「お願い」を載せていただきました。 この次号にお心当りがありましたら、本校 図書館までお知らせ下さいませんでしょうか。 宜しくお願いいたします。

出席いただいた。

忙しいなかにもかかわらず、

ご

小林忠雄同窓会副会長、伊藤守

学校側からは、室田弘校長、

6 \ 16 \ 24 \

29、

36、

同窓会事務局長の三氏が、

お

目で行われた。

飯田川支部の総会が昭和町の湖 年三月九日(土)、秋髙同窓会

ようやく春めいてきた平成三

天上はるかに ――」

平成3年8月20日 秋田高校 図書部 校史係

復刊で現在1冊しか無 琢磨(文芸部々誌)欠号 2 、 7 、 17、 3 , 4 , 5 , 8 , 12 , 13 , 20 , 21 , 22 , いもの 復刊第3号(昭和27年) 第5号(昭和29年) 第8号(昭和32年) 26、27、28、 32、33、34、 25、 30、 第11号(昭和35年) 第13号(昭和37年) 38、39、 第17号(昭和41年) 第18号(昭和42年)

第21号(昭和15年) 秋高新聞 2 · 3 · 4 · 7 · 8 · 15 · 5、 16、 28、36、45、 53、54、55、 46, 61, 62, 64, 66, 70, 71, 72, 73, 75, 76, 77, 85, 92, 95, 96, 99,

1 \ 6 \ 18、28、 52、53、 60、 68、 74、 91、 103、106、 113、123、 118, 183

卒業アルバム 欠号

昭和31年、32年、42年、 49年 3月卒業のもの

南暁(社会部々誌)欠号 1, 2, 3, 4, 5, 6, 22, 26, 30, 31, 5,